

いつか羽ばたくための
モノローグ

3

鈴野しずね

レモンイエロー

とりとめもなくあれこれ考えていた。

ふと頭に、一週間ほど前の会話が思い浮かんだ。

相手の人のことと、会話の内容、自分がどう感じていたかなどを思い出していた。

思い出しながら、はっと気がついた。

今、自分の心の奥にレモンイエローが見えている、と。

その色には、ちょっと白も横に混ざっている。

2つの、レモンイエローのでっかいクッションのようなもの。

それはタオル地のような手触りで柔らかい。

レモンイエローの色とは別に、「レモンイエロー」の文字も浮かんだ。

そしてこの文字には、「光」という漢字がかぶさっていた。

これいったい何?????

今までも私の頭の中には、こういうのが浮かんだりしてたんだらうか？

意識したことなんか、全然なかった。

これがそうなの？

synesthesia 共感覚??

びびっている、完全にびびっているこんなジブンの感覚に、。

私の頭、イカれてんの？

風に震える木の葉のように

「モノローグ」

昼間の

とげとげしいスクランブル交差点を 歩きたい

夜の

罵声が飛び交うような繁華街を 歩きたい

人ごみの中で泣きたい

試合放棄して

雑踏の中を放浪していたい

ずっと

ずっと

風に震える木の葉のように

不規則に揺れ続ける心

行きつ戻りつする気持ち

プラスとマイナス、ネガとポジ

そしてその先は？

○月○日の日記

きのうの、JCBホールでのジェフ・ベックのライブレポートを、twitter経由で読んだ。
レポートから伝わってくる熱気に、きのうのチケットを取らなかったことを、心底後悔した。
見切れ席になったらいやだなあと考えてしまったのだった。
見えなくてもいい、その場にいたかったな。
どんなに素晴らしいライブだったんだろう？

このレポートを読んでいるうちに、だんだんと腹が立ってきた。
いつまでも立ち上がれないでいる自分に、無性に腹が立った。
私、いったいナニやってんだろう？
いつまでこんなふうでいるんだろう？
こんな自分が、ものすごく悔しくなった。
そりゃあさ、すぐには立ち直れないよ、、、だって本当にびっくりしちゃったんだから。
自分がどんなニンゲンかもわからなくなっちゃったんだから。
時間かかってもしょうがないよ、、、。
でも今は、悔しいって気持ちでいっぱい。
ジェフ・ベックのライブレポが、なんで私にとってこんなに刺激的なんだ？
私、ミュージシャンでもなんでもないのに。
このままでいたくない、ずっと凹んだまま生きてくないっていう思いでいっぱい。
そして、こんな女々しい気持ち、そろそろもういらない、どっかに投げ捨てたい。
どうしたらいいか、全然わからないけども。
ああもう悔しい、女々しい自分が本当に悔しい。

とりあえず、今はジェフの新譜を聴こう。
それは、怯えていた私の気持ちを、再び音楽に向かわせてくれたもの。
音楽が、私にとって大切な宝物であるということを思い出させてくれたもの。

素直な気持ちで

アルバム感想

「EMOTION & COMMOTION」 JEFF BECK

1 「CORPUS CHRISTI CAROL」

私を何処かへ連れて行こうとするようなギター之音。

深い森へと誘う。

その音は道しるべ。動く街燈。千と千尋の中のワンシーンのような。

私の歩調に合わせてゆっくり進んでくれる。

私の行く先は何処？

2 「HAMMERHEAD」

遠くから何かが聞えて来る。

始まる。

何が？

ほら、この感じ、

キラいなわけじゃないんだろう？

本当は好きなんだろう？

忘れたの？

嘘つくなよ

ギター之音が、私を強引に引きずり込んでいく。

3 「NEVER ALONE」

そのギター之音は白。白い光。

それ以外の音は森を作り出す。

樹の幹と葉の一枚一枚を作り出して、深緑の森。

その中で、白い光が舞っている。

まるで私の目の前で弾いているみたいに、そのギター之音は生々しかった。

4 「OVER THE RAINBOW」

虹色の雲の中で、白い光が優雅に踊っている。

森の中で、柔らかい青草でできたベッドに深く沈み込む。

自分の重み全てが青草のベッドに受け止められて、うとうとし始める。

なんて気持ちがいいんだろう。

あまりに綺麗で、涙が止まらなかった。

5 「I PUT A SPELL ON YOU」

ジョス姐さん、かっこいい。
彼女といっしょに、ジェフも歌っているんだ。

6 「SERENE」

イントロに、シルクロードの遙か彼方にそびえる白い雪を頂く山脈、そんな景色が見えた。
うー、気持ちいい。
その広々とした空間が気持ちいい。
ジェフはやっぱり歌っている。
彼のギターは歌を歌ってるんだ。

7 「LILAC WINE」

ボーカルのイントロに導かれて、ギターも歌い始める。
穏やかな虹色の雲の中で、白い光が無邪気に遊んでいるような。
なんて綺麗なんだろう、なんて美しいんだろう。
なんて気持ちいいんだろう。
何かが私を包み込んでいく。

8 「NESSUN DORMA (誰も寝てはならぬ)」

彼の奏でる音はもはやギターではなく、オーケストラを伴った彼の肉声のようだった。
なんて美しいんだろう。

9 「THERE'S NO OTHER ME」

私の中から、何かを引きずり出そうとしているシンバルの歌、ジョスのボーカル。
心を掻き回される。
抵抗しても掻き立てられていく。
サビの混沌とした音の海。
そこに飛び込め！ と何かが言っている。
泳ぎ方を忘れちゃったんだろ？
だったらここに飛び込んでみろよ
そうしたらきっと、思い出せるさ
何かが私をそそのかす。
そして私を突き放す。

10 「ELEGY FOR DUNKIRK」

----そして、
ここで休め、といわんばかりの穏やかな青草のベッド。

深い安らぎに誘っているかのような。
自分の重みをそこに預けて、全てを委ねてしまおう。
疲れているんだ、とっても疲れていたんだ。
音楽に浸れなかったから、ずっと。
涙が流れた。
音が自分の体を包んでいく。
新鮮な酸素に包み込まれていく。
私を蘇生しようとしているかのように。
再生しろと、。

11 「POOR BOY」

アイコンタクトをしながら弾いている、その楽しそうな姿が見えるような気がした。
生で見たいと思った。

12 「CRY ME A RIVER」

夜の香り。
ギターが歌ってる、私になんか言ってる、説得されそう。
涙出た。
そして、彼は静かにそのステージを終えた。
朝日に美しく彩られたマッターホルンが、目の奥に見えた。
それはどこかで見た、ツェルマットから望んだ朝のマッターホルンの画像。
やっぱりこの人はそういう人なのだ。
揺るぎの無い、孤高のギタリスト。
なぜか涙が止まらなかった。

私はどうしてもこんなふうにしか感じられない聴けない、音楽を。
それはたぶん、synesthesia 共感覚、
この、断ち切ることのできないもの、ややこしく疎ましく、または、愛すべきもの-----

、または、愛すべきもの--- - ---

EMOTION & COMMOTION---→

---→imagination--emotion---そして？→

悲しみに

こみ上げる涙を

こぼさぬようにと見上げた空から

雨が降り始めたら

たぶん 幸せ

imagination

悔しさに

唇を噛み締め

ぎゅっと握り潰した激しい鼓動が

いつか音楽のビートになったら

たぶん 幸せ

emotion

鏡に

失意しか映らない時は

水滴のプリズムを作ろう

失意を七本の光の矢に変えられたら

たぶん 幸せ

creation

それで虹を創りたくなったら

きっと 幸せ

EVOLUTION

creation

---→emotion--creation---そしてそれから？→

漆黒の 黒の闇に 隠れているものは 何？

深海の 海の底に 埋まっているものは 何？

砂と 炎と 氷と 泥とが ごちゃまぜに沈殿しているのを 目を凝らして 見る

そこから生まれて 浮上していく結晶を 息を潜めて 待つ

生まれることを信じて 待ち続ける

光のうねりの出口を作るために

でも

期限付きの旅時間

無期限の待ち時間

先に終わるのは どっち

EVOLUTION

---→creation--EVOLUTION---そしてそこから～→→

赤になったままの信号を
青にしなければ 始まらない

落ちたままのブレーカーを
ONにしなければ 動けない

いのちの発火点に繋がる導火線に
点火しなければ 走り出せない

自分の内に有るもの全てに
OKを出せなければ 死んでしまう

心に生まれ続けるものを
外に出さなければ 終われない

絶対に

synesthesia 共感覚、
この、断ち切ることのできないもの、ややこしく疎ましく、または、愛すべきもの。
自分の中から消し去れないのなら、ずっと持ち続けていくしかないのなら、
この空に向かって、私は願おう。
自分の想いがいつか白い翼を持って、真っ青な空に羽ばたいていくことを。

いつか羽ばたくためのモノログ 3

<http://p.booklog.jp/book/22042>

著者：鈴野しずね

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shizushizu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/22042>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/22042>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.